

# ちよつといい話

## ～ 春 眠 ～

22年4月1日

詩人、**孟浩然**の詩に「春眠 暁を覚えず、処々に啼鳥を聞く、夜来風雨の声、花落ちること知らぬ多少ぞ」と詠われた様に春爛漫の今を楽しめます。夢から覚めて現実の驚きがアメリカの一時代を担った自動車産業の**フォード社**長の言葉を借りれば「奉仕を主とする事業は栄え、利益を主とする事業は衰える」と**産業**の現状を鑑みますと必ず思い当たる事もあると感じています。トヨタ自動車も良い車を安くユーザーに提供する。これ正しく奉仕の精神です。がしかし良い車とは乗る人の安心、安全を確保しなくてははいけません。なぜならば人の命を預かるからです。従業員一人一人が命の重みを旨に仕事に従事しなくては次から次へと問題が生じて来る事になるでしょう。禪の心に「無念無想」とあります。妄念は流転を呼びやすいと思いますが如何なものでしょうか。油掛地藏尊様の祭礼が25日行われます。六道巡りの御札は我々が死して冥途に赴く時に必要になります。我々の命終は時を待ちません。 「中陰和讃」に

帰命頂礼ありがたや中陰和讃の心得は、三尊弥陀の教えなり死して冥途へ赴かば

十萬億土のその中に セツの閻所有りと聞く

「ちよつといい話」第50号「杖」に書きましたように、死ぬとあの世は「杖」を頼りに**セツの閻所**を通過して行くこととなります。暗闇の一人旅もあるとあります。辛い修行です。「杖」は今様に言えばカーナビのような働きをするのです。あれば便利と言う事です。「この杖」とは四国、等々の**靈場巡り**で使用した杖に限ります。忘れずに御棺に「杖を」入れてあげましょう。何らかの事情で四国、西國等々の靈場巡拝が出来なかつた方もおありかと存じますが身近に日帰りにて巡拝出来る靈場もありますので、ぜひ巡拝をして頂き命終にさいしての「杖」を用意してほしいものです。**閻魔の庁**に至れば祭礼御結縁の皆様には「六道巡りをされた証の御札があり、閻魔の印も眉間に捺して頂いていますので問題無く通過させて頂けます」。杖、六道の御札、往生の念仏を称えまして、信者の方々は目出度く**阿弥陀様を親とする** 極楽へ生まれて行けるのです。

湯川秀樹博士は「科学と人間」の中で「自然界とはそもそも人間の為に来たものでなく、大きなものの中から人間も生まれて来たのであり、人間にとって都合の良い事もあれば悪い事もある。科学者が新しい事を発見しても、自然と人間との都合の良い事だけに利用されるとは限らない、善用されるか悪用されるかは人間の判断による。例えば原子力など毒にも薬にもなる」と科学も宗教も善悪を見極めて取り入れて行かないと大変な事に成ってしまいます。地球の存亡に関わる事態に発展しては一大事です。

善壽界善入院油掛地藏尊